

令和6年度の業績

事業の概況

本年度は、経営3か年計画“にしんチャレンジ2024”の初年度として、「地域社会・顧客の発展に繋がる支援力・営業力・組織力の強化」、「金庫組織体制・営業態勢の強化」、「職員人材力の強化」、「業界総合力の発揮」を重点戦略とし、地域やお客さまの支援に全力で取り組むとともに、効率的な組織運営、経費の削減、営業基盤の強化を通じた貸出金利息収入、役務取引等収益の確保などにより、生産性の向上、収益力の一段の増強に取り組んでまいりました。また、職員の意識・行動面での変化、更なる活力の発揮を喚起して、地域やお客さまに貢献する存在であり続けることで、持続可能なビジネスモデルの構築を目指してまいりました。

わが国経済は、コロナ禍の収束に伴い、緩やかに回復しているものの、物価の上昇は続き、緊迫する国際情勢や米国の新大統領の誕生などによる不確実性の高い海外経済動向も相まって、先行きは不透明な状況に置かれています。また、金融環境は、日本銀行の金融政策の見直しにより、「金利ある世界」そして「金利が上がる世界」へと大きく転換しています。地域経済においては、コロナ融資の返済が本格化するなか、原材料価格の高騰、賃上げに伴うコスト上昇分の価格転嫁の遅れや人手不足の影響が経営を圧迫するなど、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いています。

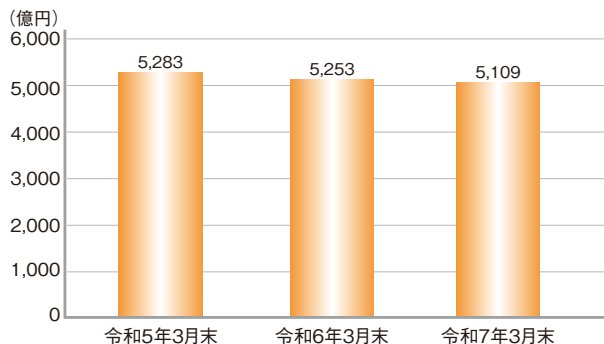
このような経済環境のもと、地域で最も身近な金融機関である信用金庫においては、地域が抱える課題の解決に取り組み、持続可能な地域社会の実現に貢献していくことが求められています。

このような環境のなか、当金庫では、収益性の改善に向け、経費の削減、営業体制の強化による生産性の向上に取り組み、会員の皆さまをはじめ、お取引先の皆さまのご支援のもと全役職員が重点戦略に沿って業務を推進してまいりました結果、当期の業績は以下のとおりとなりました。

預金積金

定期預金の取り崩しや預金から預かり資産へのシフトなどによる個人預金の減少等により、期中144億円減少して期末残高は、5,109億円となりました。

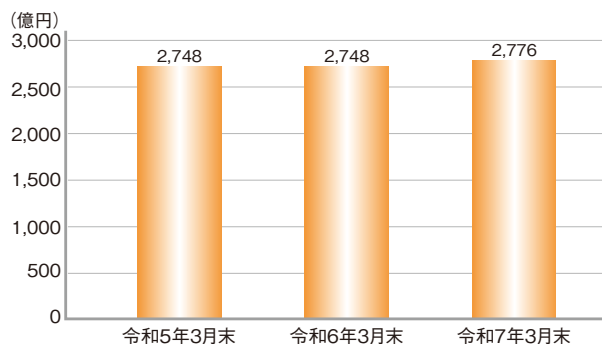
預金積金残高の推移



貸出金

事業者向け、個人向けともに積極的に推進したことから、期中27億円増加して期末残高は、2,776億円となりました。

貸出金残高の推移



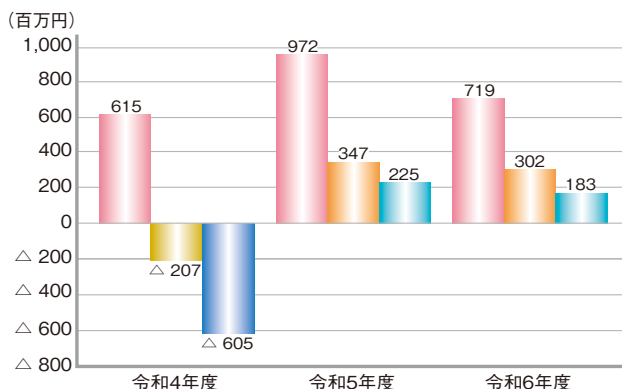
収益の状況

業務純益は、一般貸倒引当金戻入額の減少などにより、前期比2億53百万円減少して7億19百万円となりました。

経常利益は、業務純益の減少を主因に、前期比44百万円減少して3億2百万円となりました。

当期純利益は、前期比42百万円減少して1億83百万円となりました。

収益の状況 (業務純益 経常利益 経常損失 当期純利益 当期純損失)



自己資本比率

自己資本比率は、金融機関の経営の健全性を示す代表的な指標です。一般的には総資産に占める「自己資本」の割合のことで、この自己資本比率が高いほど経営が健全で安定しているとされています。

国内業務に特化する金融機関である信用金庫では、国内基準の4%以上が必要になります。

当金庫は、健全経営による自己資本の充実に努めています。令和6年度の自己資本比率は、前年度比0.19ポイント上昇して9.56%となりました。

なお、この比率は、国内基準に適用される4%に対し、2倍を超える水準にあります。

自己資本比率の算出方法について

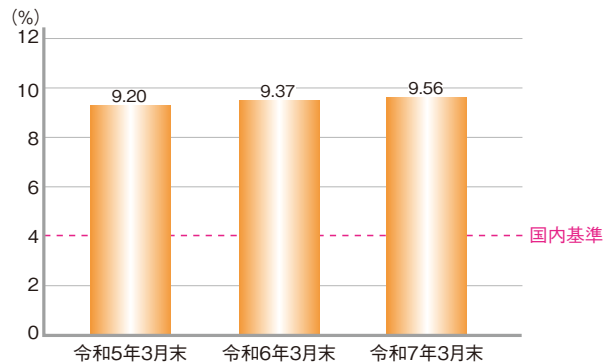
自己資本比率の算出方法は、出資金や利益準備金、特別積立金等の自己資本額を分子とし、リスクが発生する可能性がある「資産(リスク・アセット等)」を分母として計算します。

詳細は32ページに掲載しておりますので、ご参照ください。

にしんの自己資本比率(令和7年3月末)

$$9.56\% = \frac{20,193\text{百万円(自己資本額)}}{211,151\text{百万円(リスク・アセット等)}} \times 100$$

■自己資本比率の推移



当金庫は、これからも自己資本の充実に努め、お客さまに安心してお付き合いいただける健全な金融機関を目指します。

不良債権

不良債権の処理促進の方針に基づき、貸出金の償却を行った結果、信用金庫法及び金融再生法に基づく不良債権は前年度比12億75百万円増加して175億23百万円となりました。

なお、信用金庫法及び金融再生法開示債権比率(不良債権の総与信に対する割合)は、前年度対比0.40ポイント上昇して6.29%となりました。

信用金庫法及び金融再生法開示債権に対する保全状況は、担保・保証等及び貸倒引当金による保全額が156億50百万円(保全率89.31%)となります。

当金庫は、これからも不良債権の発生の未然防止と処理促進に努めてまいります。

信用金庫法及び金融再生法開示債権保全状況

(単位:百万円)

| 開示区分 | 令和6年3月末 | 令和7年3月末 |
|-------------------------|---------|---------|
| 信用金庫法及び金融再生法に基づく不良債権(A) | 16,248 | 17,523 |
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 4,451 | 4,567 |
| 危険債権 | 9,759 | 11,190 |
| 要管理債権 | 2,036 | 1,766 |
| 三月以上延滞債権 | — | — |
| 貸出条件緩和債権 | 2,036 | 1,766 |
| 正常債権 | 259,360 | 260,789 |
| 保全額(B) | 14,744 | 15,650 |
| 担保・保証等 | 11,571 | 12,564 |
| 貸倒引当金 | 3,172 | 3,085 |
| 保全率(B/A) | 90.74% | 89.31% |

信用金庫法及び金融再生法に基づく開示債権比率の推移

